

池の湯温泉

屈斜路湖西側のほとりにある池の湯では、ミネラル豊富な温かい地下水が湧き出ています。池の湯は、筋肉痛の緩和や切り傷や打ち身の治癒など、さまざまな健康状態に効果的な治療特性で長年人気があります。何世紀にもわたり、池の湯は、池の周辺に住んでいた地元のアイヌの人々の日常生活において重要な役割を果たしてきました。また、網走、美幌、北見など、屈斜路カルデラ以外のアイヌの人々も湯に浸かりにやってきていました。この天然の温かいプールからは、屈斜路湖、中島、そして屈斜路カルデラの西側の山々をの全景を見渡すことができます。

アイヌの生活における池の湯

池の湯は、長年、温泉として利用されてきましたが、昔は、生地加工にも用いられていました。従来、アイヌの人々は、オヒョウやシナノキの樹皮を柔らかくして、編み物用の靱皮繊維を作っていました。まず樹皮を剥ぎ、その樹皮を温泉に浸し、それから、日光で乾燥・漂白することで、内部樹皮の繊維を取り除きます。温かいお湯とそれに含まれてる豊富なミネラル成分が、冷たい水に浸すよりも、樹皮の軟化工程を促進させ、天然の抗菌保護・昆虫抑止となっていました。この繊維を乾燥させ、分離し、撚ることで糸玉ができ、チュニックを編むことができます。このようなアイヌの伝統衣装には、アップリケや刺繍で飾り付けが施されていました。

お湯に浸かる

池の湯は、摩周屈斜路トレイル（MKT）沿いに複数ある天然露天風呂の 1 つです。池の湯は、無料の公衆浴場として 24 時間利用できます。温泉の隣には、脱衣所もあります。温泉は混浴ですが、水着を着用することもできます。夕暮れ時には、屈斜路湖の反対側の山々の向こうに日が落ちる様子を、温泉に浸かりながら眺めることができます。温泉は湖に続いていて、時期によっては、栄養豊富な藻類が含まれていることもあります。

偉大な探検家の記憶

温泉の近くには、探検家・松浦武四郎（1818–1888 年）が 1858 年に屈斜路湖を訪れたことを記念する石碑があります。有名な探検家・浮世絵師・作家である松浦武四郎は、北海道を 6 度に渡って訪れています。松浦武四郎は、地形や動植物に加え、地元のアイヌの人々の風習について記録した地図や旅行記を発表しています。この石碑には、松浦武四郎が温泉と屈斜路湖の景色について書いた短歌が刻まれています。